



落ち葉堆肥活用で、地域循環も楽しめる！

超かんたん！ 生ごみコンポスト 2022

続けられるかなあ
毎日できるかなあ
臭いや虫が心配。。。

経験者の8割が、
「他の人に勧めたい・勧めてもいい」と回答！まずはいっぺん埋めてみよ!!



メリットと感じたこと (2021年度参加者アンケート複数選択)

ガーデニングに活用できた
循環や土の力を感じた
食べ物に感謝するようになった。
これまで食べていなかった部分も食べるようになった。
ごみが軽くなり、ごみ出しが楽になった
ごみの嵩が減り、ごみ出しの回数が減った
ごみが減り、ごみ袋サイズが小さくなった。
経済的なメリットを感じた



循環や土の力を感じたり、食べ物に感謝したり、いいことがいっぱいなんだねえ



●超かんたん！生ごみコンポストの特徴

- ・身近にあるもので誰でも気軽に始められる！ランニングコストをかけません。
- ・生ごみを基材(土)に混ぜ込むだけ。(水と二酸化炭素に分解され、土が増えすぎて困ることはありません)
- ・生ごみと基材をしっかりと和えて、乾いた土をかぶせておけば、悪臭もハエもほとんど気になりません。
- ・ごみ出しが楽になって、燃やすごみの減量、ごみ処理エネルギーの削減に貢献！(ガーデニングにも使えます！)

●おすすめ“かんたん”コンポスト容器

	空きプランター 	リユースの段ボール 
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・空きプランター(例 20×45×30cm) ・スコップ ・すでにある土を基材として活用 <p>落ち葉たい肥を基材に使うと、良い事いっぱい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2重の段ボール(例 35×40×H35 cm) ・スコップ ・すのこや網状の台(底面の通気性を保つ) ・虫除けカバー(古布を被せてゴムで留める、又は箱を特大の洗濯ネットに入れる・・・等) ・庭の土や、プランターの土を活用。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・空きプランターがあれば、すぐ始められる。 ・フタを開ける手順が無いので、虫が飛び出てビックリすることがないが、乾燥しやすい。 ・容器がしっかりしているため、壁面沿いの土も混ぜやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールなど手近にあるもので始められる。 ・フタがあるので、プランターに比べ温度が上がりやすい。(微生物が活発になり分解が比較的早い) ・フタとカバーで管理すれば、ハエなどの不快な虫が発生しにくい。
手順	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは1度、生ごみを土に埋めてみる。1週間後に、消えているか確認。 ・週に1日から始めて、少しずつ頻度をあげる。(投入しなくても、週2回程度は混ぜ、水分を確認) ・野菜くず(植物性の生ごみ)だけで始めてみる。細かく刻んで混ぜたほうが早く分解。大きいままだと分解が遅い。 ・雨が当たらない場所に置く。50~60%の湿度を保つ。(土を握って手を広げたときホロっと崩れる程度) ・生ごみ投入時には、生ごみと土をしっかりと混ぜ(和え)た後、その都度、土で覆い隠す。 (生ごみ同士がくっついた状態は水分割合が高くなり腐敗しやすく、その腐敗臭が虫を呼びます。) ・「米ぬか」「動物性生ごみ」「もみ殻くん炭」などを入れると微生物が活発に働き、分解が早く進む。 	

落ち葉堆肥で 超かんたん！生ごみコンポスト

【スケジュール】

* 詳細は、参加受付後に別途メール等でもご案内します。

アンケート3回で
ステンレスボトルも
ゲットして、
プラごみも削減！

① 参加申込

メールフォームより「生ごみコンポスト」申込アンケート^{*1}に回答ください。

<https://kyoto-gomigen.jp/works/300.html>

* 期間中、コンポストに関する情報受信のメーリングリストに登録いただけます。(週1程度)

* 団体(5名以上)での参加は、お電話にてお問合せください。

(落ち葉の堆肥化に新たに取り組む団体にはタヒロン^{*1} 基貸与。先着5団体) * 外音: 落ち葉堆肥用メッシュバッグ



② 埋めるための基材(落ち葉の堆肥 約5ℓ)をお渡します。(不足分はお手元の土を足してください)

お渡し期間: 7月~8月(木・日・祝日を除く) 9時~17時 (所要時間 30分程度)

お渡し場所: 京エコロジーセンター(伏見区深草池ノ内町13)2階 京都市ごみ減量推進会議事務局へ

* 事前に(できれば4日前までに)ご希望日時をお知らせください。

* 持ち帰りいただく「落ち葉堆肥」をふるいにかけていただきます。

* 落ち葉堆肥を持ち帰る袋はご持参ください。(新品のプラ袋ではなく、使用済レジ袋や米袋、燃やすごみの袋(黄色い有料指定袋)等を活用ください。)

容器の指定はありません。段ボールや
空きプランターの利用をお勧めしています。

③ 空きプランターや段ボール箱に基材(落ち葉堆肥や使っていないプランターの土など)を7分目まで入れます。

* 基材の水分量を50~60%になるよう水を補充します。

生ごみが固まったままだと腐敗し、虫を呼び
寄せます。しっかりと土と和えることと、そ
の都度土で覆い隠すことがポイント。

④ 毎日出る生ごみを、基材に混ぜ込みます。

・混ぜ込むタイミングは、週1回でも、毎日でも。できる範囲でOK。(1か月~3か月間 続けてください)

・期間中、コンポストの情報をメールで受け取っていただけます。(週1回程度 12月まで)

・困ったことや発見したこと、ご質問などは、適宜メールにてお問い合わせください。

⑤ 中間アンケート^{*2}に回答ください(10月末頃予定。メールでご案内します。)

⑥ 終了アンケート^{*3}にご回答ください(12月末頃)

★開始時、中間、終了時の全3回のアンケートに回答いただいた方にはステンレスボトル(又はボトル洗いブラシ)を進呈。(郵送または手渡し) * 申込が多い場合は、申込先着順となりますのでご了承ください。

💡 自分が続けやすい方法を見つけ
てください。(手間、堆肥の
使い道、ランニングコスト)

💡 目指せ! 地産地消コンポスト

循環ってそういうことか



●お問合せ先● 京都市ごみ減量推進会議 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会)



TEL 075-647-3444 (木・日・祝定休)

FAX 075-641-2971

E-MAIL sanka@kyoto-gomigen.jp

HP <http://kyoto-gomigen.jp>

この印刷物が不要になれば、雑がみとして古紙回収へ